

2025 年度 大学院春季入試（英文学専攻）

博士課程（前期） 模範解答

問い1. 英文に書かれた「生きた言語」と「死語」の主な違いは、前者は変化する、後者は変化をしない、ということである。実際言葉自体に命があるわけではなく、生きているのは話者、とりわけ母語話者なのであるが、生きた言葉は話者に関わる様々な要因によって変化をする。死語は母語話者がいないため固定したまま変化をしない。

問い2. 第一に挙げられているものが、発音上の変化である。例えば、stone という語はかつては stan [sta:n] と発音されていたが、その後、大母音推移と呼ばれる長母音の音質の変化により [sto:n] に、さらに二重母音化して [stoun] と変化した。

第二に挙げられているものが、意味の変化である。例えば、「愚かな」を表す silly は、かつては「聖なる」「祝福された」という意味を持っていたが、その後意味の下落を通じて、マイナスの意味を持つに至っている。

第三に挙げられている変化が、文法上の変化である。英文に挙げられているのは、文法の中でも形態論に属する変化である。know の過去形は knew であるが、love - loved, look - looked と言った多数の規則動詞の変化から類推により、非標準的な英語の中で knowed のような語形が用いられることもある。

問い3.

例：deer「鹿」という語は、英語の歴史の初期には、「動物」を意味する語であった。かつては、動物の典型と言えば「鹿」であったため「鹿」を表すこともあった。この状態が古英語、中英語を通じて続いたが、中英語の終わる頃には deer はもっぱら「鹿」を表す語となり、「動物」を表す語としては、フランス語から借用語である animal が定着した。つまり deer の表す意味の範囲が狭くなったということである。